

令和3年度府中市環境審議会
第3回生物多様性地域戦略部会報告

資料10-3

- 1 日時 令和3年11月10日水曜日 午後6時00分～8時00分
- 2 会場 府中市役所北庁舎3階第1会議室
- 3 出席委員
金子部会長、吉川委員、金本委員、高野委員、江島委員、山田委員、青山委員、栗原委員、吉武委員

4 議題

- (1) 次期府中市生物多様性地域戦略の施策の方向性について
- (2) アンケート調査案について

5 議事内容

- (1) 次期府中市生物多様性地域戦略の施策の方向性について

ア 内容

次期生物多様性地域戦略と位置付けられる基本方針1（「人と自然が調和し豊かなめぐみが得られるまちを目指します」）を構成する基本施策の設定について

イ 主なご意見と事務局対応

	主なご意見	事務局対応
1	多摩川の様々な問題について議論や情報共有を行う、多摩川流域の自治体による会議体を府中市主導で組織できないか。	流域の自治体や団体が参加する多摩川流域協議会が国土交通省により設置されており、同会議の中で情報共有等を図っていきたい。
2	水辺の保全よりも緑の保全を最初に持つことが府中市としては適当ではないか。	修正案にて反映する。
3	多摩川河川管理者である国交省に対し、生態系の保全について市民や市の要望を伝える仕組みを整備すれば保全が促進されると思われる。	国や他の行政機関との連携強化について、取組を検討する。
4	いわゆる3本柱として、生態系の保全・回復、普及啓発のほかに、保全の担い手に関することを方針に盛り込んでいく必要がある。	修正案にて反映する。
5	自然を利用する人間の意識そのものを変えていく必要がある。	承知した。
6	保全活動の担い手については高齢化が進んでおり、活動をリードする人材、後継者の育成が課題である。学校教育などにおける子ども世代への働きかけが重要である。	環境教育の充実について取組を検討する。
7	生き物や自然に関心の低い大多数の人々に日常生活において生物多様性に資する行動を取ってもらう仕組みづくりなど、生物多様性の主流化を進める体系が必要である。	修正案にて反映する。

8	水量豊富な矢川湧水を水源とする府中用水を有効活用して欲しい。	用水を活用した自然環境保全について、取組を検討する。
9	アライグマ・ハクビシン対策について、箱わなの貸出し数の増加など、市として積極的に取り組んでいただきたい。	外来種対策の強化について取組を検討する。
10	侵略的な外来生物は特定外来生物以外にもいるため、文言の修正をすべきである。	修正案にて反映する。
11	「生物多様性の理解促進」についてはもう少し踏み込んだ表現が望ましい。	修正案にて反映する。
12	「身近な自然の維持」については、維持だけではなく、失われた環境の創出、復元といったことも含めていけるとよい。	修正案にて反映する。

(2) アンケート調査案について

ア 内容

意見照会の回答を踏まえた修正案（生物多様性地域戦略該当部分）に関するご意見について

イ 主なご意見と事務局対応

	主なご意見	事務局対応
1	言い回し、表現等について	再検討する。

(3) その他（環境像及び基本方針2～5に関する意見について）

	主なご意見
1	望ましい将来像については現行計画のまま変更しなくてよいのではないか
2	（基本方針3）脱プラスチックの推進について、プラ容器から紙容器への切り替えを市が率先してメーカーに働きかけることが必要である
3	（基本方針3）循環型社会の形成について、どのように循環させるのか、特に利用の部分について具体的な考え方を盛り込んでいく必要がある
4	（基本方針5）環境保全活動センターを活用したネットワーク構築とあるが、センターを通さないと何もできないということになりかねないため、具体的な組織名を出す必要はないのではないかと、中間支援組織といった表現でよいのではないかと

以上